

百里

百里平和委員会

第 159 号 2016 年 9 月 5 日

HP: [百里基地反対運動](#) で検索

水戸市見川 5-127-281 TEL 029-251-2806

百里基地の戦闘機がすべて、超うるさい！F4ファントムに交代し、騒音と危険が増大しました。

わからない事を出し合い、知っている事を話し合い

百里を語る会

スタート

5月の百里平和委員会の総会で実施することになった百里学習会「百里を語る会」は、1回目を7月に、2回目を8月に実施しました。改めて、この学習会について講師としてリードする伊達郷右衛門さんの思いを紹介します。

以前から百里平和公園の草刈りをボランティアでしている仲間から「おれ達、百里の草刈りしているけど、百里闘争のこと全然知らないんだよな」という話が出て、「実はおれも良く知らないんだ」ということになり、「そんなら百里のたたかいを勉強しようや」という事になりました。ざっくばらんに「わからない事を出し合い、知っている事をみんなで話し合おう」。そんな勉強会にしてみたいと計画しました。

第1回 7月13日 9人が参加しました

7月13日（水）に百里公民館で、「百里を語る会」が行われ、9人が参加しました。この学習会は、百里基地反対闘争の歴史的事実を広く深く当時の日本さらには世界情勢の中で確認することと、その闘争の意義を検証し今後の百里基地反対運動さらには平和運動につなげていこうと開始したものです。



1回目となる今回は、伊達郷右衛門さんが講師となって、百里基地反対闘争の全般、参加者と共に自由に語り合いました。伊達さんは、「基地百里」「百里原農民の歴史」等の「百里」の歴史がわかる書籍を紹介しつつ、県労連の記念誌などのコピーを資料として、百里基地反対闘争を当時の社会情勢と関連づけつつ、その全体像を紹介してくれました。例えば、百里への誘致が表面化した1955年は、前年に自衛隊が発足する中で、保守合同、社会党の再統一、日本共産党の方針転換など、55年体制が確立した年であり、百里闘争を読み解く鍵がここにあるという指摘もありました。また、百里の開拓の歴史、神ノ池基地闘争なども話題になりました。

「百里を語る会」は今後毎月1回程度のペースで開催することになりました。

2回目 8月23日 10人が参加しました

8月23日（火）に百里公民館で、2回目の「百里を語る会」が行われ1回目より1人多い10人が参加しました。

2回目となる今回も、1回目同様伊達郷右衛門さんが講師となって、百里基地反対闘争の前史となった、「神ノ池軍事基地反対闘争」を中心に、参加者と共に自由に語り合いました。伊達さんは、主に県労連の記念誌を資料として、基地建設阻止に成功した（勝利した）「神ノ池軍事基地反対闘争」の経過と勝利の要因を分析してくれました。戦後10年にあたる1955年は、防衛庁による茨城県内各地への基地建設計画が表面化した年でした。旧筑波海軍航空隊跡（友部町）、大洗町那珂川河口の「米軍救難艇基地」計画、そして「神ノ池」、「百里」です。どこでも反対運動が起こり、「百里」以外では計画が頓挫しました。「神ノ池」では防衛庁の切り崩しにより、鹿島町長 町議会が反対から賛成に転じるといったことも起こりましたが、結局、防衛庁は1956年には建設を断念しました。しかし「百里」では小川町長幡谷仙三郎を中心に水面下で航空基地建設計画が進行していました。この時期、全国では「砂川闘争」と「沖縄基地闘争」などが闘われていました。伊達さんはそれらと対比しながら、百里基地闘争の特徴を3つ指摘しました。「町政民主化」闘争の弱さ、幡谷財閥の財政私物化、開拓農民の農業意欲の低さです。これらは、次回に詳しく取り上げます。



